

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

坂町立横浜小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	53	43	62	42	50	46	296	20	316
学級数	2	2	2	2	2	2	12	4	16

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	A	A	A	A 推進	推進	専科	A	A	A	A	A	A	専科
5年2組 (担任：B)	B	B	B	B 推進	推進	専科	B	B	B	B	B	B	専科

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：C)	C	C	C	専科	推進	専科	C	C	C	C	C	C	専科
6年2組 (担任：D)	D	D	D	専科	推進	専科	D	D	D	D	D	D	専科

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

- ①理科室を拠点として児童の興味・関心を引く場の設定を工夫することができた。また、児童が個々のペースで学習を行う場や時間を設けることができた。
算数科においては、校内研修で自己調整学習に係る授業提案を行い、全教員が指導法について学んだ。
- ②職員室の座席配置を工夫し、日々学級担任と児童の伸びや課題点について交流したり相談し合ったりした。
- ③日々の学級での宿題とは別に、推進教員からの理科の宿題を長期の締切日を設定し、数回出した。
- ④観察や実験、予備実験の必要な理科の授業を推進教員が行うことで、学級担任の負担が減った。
- ⑤実験方法の提示や、観察・実験の過程等を撮影するなど、ICTを効果的に活用した。



<成果>

- ①児童が試行錯誤しながら観察や実験を行うことができ、個々の興味・関心に応じた問題解決的な学習活動を充実させることができた。

4月に設定した学年ごとの平均正答率の目標を達成することができている。

【目標】

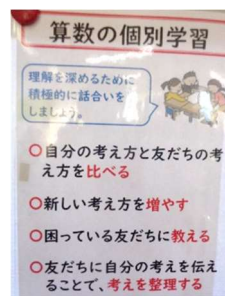
〈5年生〉 知識・技能：90 思・判・表：85
〈6年生〉 知識・技能：85 思・判・表：75

【実績】

知識・技能：90.2 思・判・表：85.1
知識・技能：89.2 思・判・表：81.1



また、算数科の研究授業を通して、授業における学習形態の工夫や振り返りシートの活用についても提案することができ、全教員で研究を深めることができた。



- ②担当する授業以外での児童の姿を交流することで、児童の理解が深まり、よりよい関わり方について考えることができた。
- ③児童が少し長いスパンの課題を把握して取組む力が付き、中学校への接続につながった。
- ④学級担任が指導する教科の数が減ることで、授業研究を丁寧に行うことができたり、一人一人とゆとりをもって関わったりすることができるようになっている。
- ⑤観察や実験の過程を画像や動画に残すことで繰り返し見直すことができ、児童の考察する力が高まった。

＜課題＞

- ①推進教員は基本的には一人で教材研究を行うため、良い実践等の情報が得にくい。
- ②複数学級を指導することで、欠席児童や不登校傾向にある児童の学習の補充が難しい。
- ③中学校の学習内容との系統性について把握ができていない。
- ④複数学年の理科の学習の畑づくりや植物の成長の管理を推進教員だけで行うことが大変であった。
- ⑤児童が撮影した画像を印刷できる環境があると良い。



＜対策＞

- ①長期休暇等、時間があるときに、教科の専門性の高い先生に指導方法について相談に乗ってもらう。
- ②授業記録を丁寧に行い、担任と連携して補充の必要がある児童に指導を行う時間を確保するようにする。
- ③中学校の学習指導要領を確認したり、中学校の指導の仕方について見学を通して理解したりする。
- ④地域の方に手伝っていただいたり、児童のボランティアを募り、放課後に行ったりすることなどが考えられる。
- ⑤必要性が高い場合は、教員のタブレットから印刷する等して対応している。